

財団法人 日本自然保護協会 平成 21 (2009) 年度 事業報告

(平成 22 年 4 月 23 日 評議員会同意、平成 22 年 6 月 11 日 理事会議決)

I. 財団法人の記録

1. 役員等の異動

退任 専務理事 大澤雅彦 (平成 21 年 11 月 27 日)
選任 専務理事 亀山 章 (平成 21 年 11 月 27 日)

2. 会員数 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

(1) 普通会員	() 内は昨年度との差異
個人会員	12,247 人 (-416 人)
ファミリー会員	2,793 人 (-114 人)
ユース会員	94 人 (-29 人)
(2) 団体会員	477 口 / 273 団体 (-75 口 / -21 団体)
(3) 賛助会員	84 口 / 45 法人 (+-0 口 / +3 法人)
(4) 寄付サポーター	720 件 (+1 件)
(5) アクションサポーター	4,602 件 (-234 件)
合 計	21,017 人・口

3. 会議

(1) 理事会

- ・ 5 月 20 日 臨時理事会 / (議決) 最初の評議員選定委員会運営規則について
最初の評議員選定委員会の委員選出について
(検討) 最初の評議員の候補者リスト作成について
定款変更案について
- ・ 6 月 17 日 定例理事会 / (議決) 平成 20 年度事業報告及び同収支決算
(承認) 固定資産の運用状況および平成 21 年度資産運用方針
(検討) 公益法人移行に伴う「最初の評議員候補者」リスト
作成について
(承認) 第 9 回日本自然保護協会沼田眞賞について
- ・ 11 月 27 日 臨時理事会 / (議決) 専務理事の交代について
- ・ 2 月 24 日 臨時理事会 / (議決) 平成 21 年度補正収支予算について
(検討) 平成 22 年度事業・収支計画 (事務局素案) について
- ・ 3 月 24 日 定例理事会 / (議決) 平成 22 年度事業計画・収支予算について
(議決) 次期評議員の選出について

(2) 評議員会

- ・6月17日 定例評議員会／（同意）平成20年度事業報告及び同収支決算
（検討）公益法人移行に伴う「最初の評議員候補者」リスト作成について
- ・11月27日 臨時評議員会／なし（報告事項のみ）
- ・2月22日 評議員書面評決／（同意）平成21年度収支補正予算
- ・3月17日 定例評議員会／（同意）平成22年度事業計画・収支予算

(3) 委員会等

- ・プロ・ナトゥーラ・ファンド助成運営・審査委員会（4/23、8/11、9/14）
- ・モニタリングサイト1000検討委員会（5/14、10/1、2/4）
- ・AKAYAプロジェクト企画運営会議（12/7、3/23）
- ・里山保全小委員会（1/14）
- ・自然観察指導員講習会講師会議（2/11）
- ・IUCN日本委員会総会（3/24）

4. 意見書等の公表

(1) 意見書・要望書等（代表者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、4件の意見・提言を提出した。（11頁・別表1）

(2) 声明・パブリックコメント等（主に業務担当責任者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、7件の声明・パブリックコメント等を提出した。（11頁・別表2）

5. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる38件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した。（11頁・別表3）

6. 印刷物の発行

(1) 会報『自然保護』

- ・年6回／奇数月発行（第509号～第514号）、44頁／各号約18,000部

(2) 報告書・資料集

- ・資料集No.47 「生物多様性条約シリーズ 保護地域編」（9月、800部）

(3)パンフレット等

- ・ 寄付パンフレット (2種類、計 50,000 部)
- ・ 入会案内パンフレット・個人会員 (80,000 部)
- ・ 自然観察指導員講習会パンフレット (50,000 部)
- ・ 自然観察指導員講習会ポスター (2,000 部)
- ・ 自然のめぐみ調査パンフレット (経団連助成、7,000 部)
- ・ 『自然しらべ 2009 湧き水さがし』調査マニュアル (60,000 部)
- ・ 『自然しらべ 2009 湧き水さがし』ポスター (1,200 部)
- ・ 『自然しらべ 2009 湧き水さがし』結果レポート (20,000 部)
- ・ 冊子「辺野古・大浦湾アオサンゴの海 生物多様性が豊かな理由 ―合同調査でわかったこと―」(WWF ジャパン共同発行、2,000 部)
- ・ 綾の照葉樹林プロジェクト 林床マニュアル (三井物産環境基金助成、500 部)

II. 事業報告書

平成 21 年度として以下の業務を実施した。

1. 保護プロジェクト事業

(1) 辺野古・大浦湾の保護活動

普天間飛行場移設の環境影響評価準備書が出されるタイミングに、この海域の生物多様性の解説冊子を共同発行した。県民・メディア・議員等に広く配布、辺野古・大浦湾の生態系の重要性の理解に役立てた。準備書の分析を専門家等と行い、意見書を提出した（11 頁・別表 1）。大浦湾のアオサンゴ群集の白化現象について地域 NGO と緊急調査を実施した。政権交代後の日米首脳会談にメッセージを送るなど、移設事業の見直しを求めてきた。

(2) 各地の自然保護問題の集約と社会問題化

地域 NGO からの要請に応じて現地視察、政府機関等の施策検討会への参画、取材対応・催事協力等により、保護地域の拡充・新設自然保護施策の実行に向けての働きかけや、各地の保護問題の状況把握および交渉活動を行った（11～15 頁・別表 1～4）。

- ①アセス法改正への政策提言 法施行 10 年が経過し、政府の見直しの検討会の場で、各地で改善されない開発問題事例をもとに、根本的な課題解決のために戦略的環境アセスメントの導入などの提言を行った。
- ②「わが国における保護上重要な植物種の現状（種 RDB）」発行 20 周年の節目に、全国の会員からよせられている絶滅危惧種の保全の現状や、これ以上絶滅を出さないために何をすべきか、多くの人が参加・応援できる保全活動を、会報を通じて提案した。
- ③山岳地域の適正な利用・管理の象徴的な事例である至仏山について、生態系の保全を基本とした利用のあり方を提言した。それにより、登山道の一部迂回を含めた抜本的対策へ向けた調査が開始されることになった。

(3) AKAYA プロジェクト(林野庁委託事業)

林野庁関東森林管理局と締結した『「三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画」推進のための協定書』（平成 16 年 3 月 30 日～平成 23 年 3 月 31 日）に沿い、生物多様性保全と持続的な地域社会づくりの実践モデル構築のため、以下のプログラムを実施した。

①プロジェクト総合事務局業務

「企画運営会議」、「調整会議」等の意思決定会合の運営、プロジェクト事業に係る 7 つのワーキンググループの運営・参画を通じて、関係団体の協働の枠組みを構築した。また、モデルプロジェクトとしての事例提供・周知、参画主体の開拓のため、執筆・講演・研修・現地視察・各種取材協力・催事協力等への対応や専用 web サイトの運営、NACS-J 会員ツアーの実施等を行った。

②生物多様性復元と持続的・地域社会づくりの手法開発

- ・赤谷の森・国有林野地域管理経営計画の改訂（2010 年）にあたり、プロジェクト 6 年間の協働の成果として、生物多様性保全型の森林管理のあり方をとりまとめ、関係者と合意形成を

図った。

- ・治山ダムの撤去を日本で初めて実現した(9月、茂倉沢)。溪流環境復元の効果検証のため、撤去前の溪流林や水生昆虫の基礎調査と、来年度以降実施する撤去後の調査研究計画を林野庁と共に策定した。
- ・植生管理・猛禽類・ほ乳類等のモニタリング調査と自然林修復手法の研究を行うとともに、地理情報システム上で成果を分析した。
- ・「いきもの村」「小出俣エリア」において、教材配置の計画立案と、配置を実施した。
- ・月例の調査研究・環境管理実習「赤谷の日」(11回開催)を中心に、苗畑跡地「いきもの村」を、教育研修活動の拠点にするための整備をすすめた。

(4) 小笠原プロジェクト

①ジオエコタイプ (GET) 区分解析による保全管理の提案

- ・父島について、地生態学にもとづく GET 区分解析(2008年度プロナトゥーラ助成事業)から、優先すべき保全施策と場所を抽出し、その結果と各種施策が連動するよう関係機関へ提案した。また、地域 NGO が主体的に保全活動に参画できる仕組みを林野庁関東森林管理局に提案し、小笠原父島国有林における協働プロジェクトの立ち上げを実現することができた。
- ・外来種問題が顕在化している東平地域の保全管理について合意づくりに関与し、地域 NGO と連携した保全活動をすすめた。
- ・保全施策検証のため、母島の GET 区分解析作業に着手した(トヨタ環境活動助成事業)。

②小笠原南島モニタリング調査(東京都委託)

南島のモニタリング調査を継続実施し、利用による自然環境への影響についての検証をおこなった。研究者等による検討会を開催し、クマネズミ等外来種の監視・対策の必要性、10年継続してきたモニタリング調査の総括等を議論・提案をした。

(5) ライブラリー情報整理・活用(運営基盤整備積立金活用事業)

書棚を一新しスペースの拡大を図り、各種資料の登録・分類・整理を行い、「自然保護ライブラリー」としてデータベースおよび検索システムの整備を進めた。

(6) 生物多様性への道標(COP10 エクスカーション準備)

生物多様性条約 COP10 を機に、NACS-J が関与した河川・流域における体験型スタディツアーを、地域 NGO と連携して実施する準備をはじめた。

2. 保全研究事業

(1) 生物多様性の道(事業実施積立資産活用事業)

生物多様性条約 COP10 の機会を活用して、地域の生物多様性保全を促す活動を実施した。「市民による五感で捉える地域の生物多様性・生態系サービスモニタリング」「生物多様性の守り手ガイドブック」「市民調査全国大会」について、全国で保全活動を実践する市民グループに呼びかけ、地域の生物多様性の現況とその保全活動状況についてエントリーシートによる調査を実施した。調査結果と成果は新年度に公表予定。

(2) 市民主体の身近な自然のモニタリングと保全・再生活動

①生態系総合モニタリング調査（(株)NTTデータ協賛事業）

生物多様性情報の登録システム「生きもの情報館」を運用し、登録会員に「生きもの情報館ニュース」を定期的に配信した。特に外来生物や温暖化で北上するチョウの登録を呼びかけ、全国の300名以上から7,000件以上のデータを収集した。

②モニタリングサイト1000里地調査（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）（環境省生物多様性センター請負）

全国196ヶ所で市民主体によるモニタリング調査を継続し、1100名以上の市民が調査員として参加、全国で開催した調査講習会に延べ250人以上の方が受講した。その結果、25万件のデータから里やまの植物や鳥類・哺乳類の種多様性の全国的な現状が初めて把握され、アライグマなど侵略的外来種の分布拡大、地球温暖化によると思われるチョウ類の地理的分布の変化がわかった。

③ふれあい研究

綾の照葉樹林プロジェクトにおいて、綾町上畑地区で地域住民と共にふれあい調査を実施。その調査結果に基づいて「ふれあいマップ」を作成した。これを活用して、地区の小学生を対象としたふれあい発見ウォーク、町民と周辺市民を対象とした地域の自然と人と自然のかかわりを発見するふれあいツアーを実施した。これは地域づくりと結びついた照葉樹林の保全・復元への地域住民の関心を高め参加を促すことを目的としている。また、市民参加のふれあい調査手法をとりまとめた「人と自然のふれあい調査はんどぶっく」を発行した。

(3) SISPAの活用と現地調査にもとづく照葉樹林・干潟・海岸・里やまの科学的な保全戦略づくり

①綾プロジェクト（三井物産環境基金助成事業）

「林床植生調査マニュアル」を作成し、市民参加の林床植生調査を実施し、人工林ごとの種類や被度の違いを明らかにした。調査研究ワーキングを実施し、プロジェクトにおける基盤情報整備やデータベース構築、また施業方法ガイドラインや復元のためのマスタープラン策定に向けた議論をした。

②干潟・海岸保全研究

・沖縄島泡瀬干潟保全

工事前から毎年実施している海草藻場のモニタリング調査を実施した。調査結果に基づきレポートをまとめ、環境監視委員会の場やメディアを通じて、本格的な埋立工事实施後に起きている砂州などの地形変化、浅場への土砂の堆積、海草藻場の消失を指摘、工事の中断と原因の究明、保全措置の実施等を要請した。

・海岸植物群落モニタリング

昨年度まとめた市民参加の海岸植物群落調査の調査成果を活用し、メディアを通して全国の砂浜の自然の状況と自然海岸の重要性と保全をアピールした。

③屋久島自然環境動態把握調査報告書の発行

気象、地形地質、植生、動物（ほ乳類、昆虫類）に関する調査を行い「平成20年度屋久島世界遺産地域における自然環境の動態把握と保全管理手法する調査報告書」を発行した。シカの個体群増加による屋久島の生態系への影響などを明らかにした。また、その結果を屋久島における調査研究・モニタリングの成果報告会で発表した。

④SISPA・戦略的保全地域情報システムの構築（運営基盤整備積立金活用事業）

SISPA ウェブサイトを開設し、SISPA の解析結果を掲載した。また、植物群落 RDB と保護地域とのギャップ分析結果を公表した。SISPA データベースのシステム変更を行いグループ化機能の強化などデータベース公開に向けた準備を行った。鹿児島県大隅地方で照葉樹林の現地調査を行い現状を明らかにした。

(4) 国内外の多様な主体との連携による生物多様性保全の普及啓発および政策提言活動

①国際

- ・国際生物多様性情報収集（環境省請負）

「生物多様性条約保護地域作業計画の将来検討に関するワークショップ」（9 月、韓国済州島）、「生物多様性条約伝統的知識の保護に関する作業部会（8 条 j 項作業部会）および ABS 作業部会」（11 月、カナダモントリオール）、「トロンハイム生物多様性会議」（2 月、ノルウェートロンハイム）等の国際会議に出席し、情報収集と海外 NGO とのネットワーク強化を図るとともに、生物多様性国内対話の実施（生物多様性条約市民ネットワーク協力）、主要決議の翻訳校正を行った。

- ・IUCN-J の運営（地球環境基金・経団連自然保護基金助成事業）

IUCN-J 事務局として体制の強化とプロジェクトチームを運営した。生物多様性条約のポスト 2010 年目標に関するシンポジウムを開催し、レッドリストや生物多様性条約に関する小冊子の発行、国内外 NGO との連携強化、ウェブサイトのリニューアルを行った。

- ・CBD ネットワークへの参画

2009 年 1 月 25 日設立の生物多様性条約市民ネットワークの運営に携わり、ネットワーク運営に貢献した。東京事務局コーディネーターとして、COP10 に向けた国内 NGO の組織化や海外連絡調整などの準備を行った。

②企業 CSR での生物多様性保全研究

国内の各企業が社会的責任として本業を通じた生物多様性保全に取り組めるよう、富士フイルムホールディングス株式会社や株式会社 NTT 都市開発をパートナーとした事例的な取り組みを進めた。その結果、里やま調査活動における企業との協力体制を進めるとともに、生物多様性保全に関する講習や事業担当者対象のワークショップを通じて社員の人材育成に貢献できた。

③プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（(財)自然保護助成基金との共同事業）

平成 21 年度（第 20 期）助成の募集・審査を行い、20 件の国内外の研究・活動グループおよび個人に計 1,985 万円の資金支援を行った（16 頁・別表 5）。

平成 19 年度（第 18 期）助成の成果報告書を作成し、平成 20 年度（第 19 期）助成の成果報告会を開催（12/12、東京渋谷・サンスカイルーム、約 80 名参加）するとともに、専用 web サイトに助成成果の報告を第 14 期まで追加公開した。

3. 教育普及事業

(1) 自然観察指導員養成

①事業体制強化（事業実施積立資金活用事業）

指導員養成事業のねらいの再確認や実施体制の再構築を行うため、関係者にヒアリングし、今後の方向性を検討した。30周年記念指導員全国大会（2009年3月20-22日実施）の記録を整理し、報告書の発行準備を進めた。

②指導員養成

市民団体（自然観察指導員連絡会、NPO法人を含む：3回）、自治体（1回）、学校（3回）、企業（2回）との共催により、全10回の講習会を開催し、461名の指導員を養成した（17頁・別表6、初回以降総登録者数24,886名）。講習会受講者に自然保護の手段の一つとしての自然観察会の役割とその手法を普及し、指導員としての立ち位置や役割に関して理解を図った。また、講師との連絡や会議を通じて、講習会プログラムの改良ならびに講師間での情報共有を行った。

③指導員フォローアップ

・研修会検討WG

「自然観察指導員中期目標検討WG」（第4回/全4回、2008年度から継続）を行い、新規研修会の企画を提案した。新規研修会のカリキュラムづくりをWGメンバーの協力を得て着手した。

・生物多様性実感研修会

生物多様性実感研修会のプログラムを企画し、自治体共催の研修会を2回（佐賀県6月27-28日、埼玉県10月31日-11月1日）と主催の研修会を2回（東京都8月28日、千葉県1月16日）実施した（17頁・別表7）。実施内容と成果を一部Webに掲載し、プログラムの普及に努めた。

・連絡会とのネットワーク強化

九州自然協議会（2月6-7日）、NPO法人自然観察指導員埼玉の総会（3月7日）に出席をし、生物多様性の道プロジェクトをはじめとした現行の活動紹介や情報提供を行った。

④指導員管理

指導員専用Webページを改訂し、登録後のフォローアップに有効な情報提供を行えるようになった。加えて、各地の指導員の活動を紹介するページを設け、指導員の活動の幅広さをアピールすることができた。また、指導員活動ウェブデータベース「しどういんライブラリー」の設計を行い、掲載する情報の種類や扱い方を検討した。

(2) 環境教育一般

①自然しらべ2009

身近な生物多様性に気づく機会として、市民参加型の環境教育プログラム「自然しらべ2009湧水さがし」を実施した。通算14回目、主催：NACS-J、共催：読売新聞東京本社、NTTレゾナント・キッズgoo、学術協力：小泉武栄（東京学芸大学・NACS-J評議員）、特別協賛：電気事業連合会、協賛：サニクリーン、西日本旅客鉄道、ヴェレダジャパン、誌面協賛：「日経サイエンス」「山と溪谷」ほか9誌、アシスタントスタッフ（損保ジャパン派遣

インターン生を含む3名)、実施期間7/1～9/30、参加者数：1,987名、観察地点533カ所。

②外部依頼対応

催事パネラー、各種観察会のリーダー、訪問学習の受け入れ、取材対応等への職員・講師等の派遣、人材の紹介、後援等の協力を行った(12ページ・別表4)。

(3) 個人会員拡大

①文字媒体を使った入会勧誘

入会パンフレットおよび活動紹介パネルを用いて、イベント会場や自然観察会などでの入会勧誘と、会員等の協力者の手によるパンフレット配布を行い、入会を呼びかけた(協力者483名)。

各種自然系施設へのパンフレット常設協力依頼(717カ所)、退会者への再入会案内DMの実施、「自然しらべ」参加者・問い合わせ者への入会案内DMの実施等を通じて入会を呼びかけた。

4. 編集事業

(1) 会報『自然保護』の発行

年6回(第509号～第514号)、各約18,000部を編集・製作した。各部と連携し「生物多様性」を中心に特集を制作した。会員読者からのニーズが高い、日常生活や実践活動に役立つ情報記事として、今日からはじめる自然観察、自然を守るあの手この手、などのコーナーを新設した。

[各号特集]・雨の日も楽しい自然観察(第509号、5/6月号)

- ・身近な探検!湧き水さがし(第510号、7/8月号)
- ・保護地域で生物多様性を守る10の課題(第511号、9/10月号)
- ・アリのつなぐ自然のつながり(第512号、11/12月号)
- ・これ以上絶滅を出さないために(第513号、1/2月号)
- ・感性に響く生物多様性の表現(第514号、3/4月号)

(2) NACS-J ホームページの運営(運営基盤整備積立金活用事業)

2008年度に開始したリニューアルは2009年7月下旬から順次公開した。活動全体を見渡せる構造と、参加や支援を求める閲覧者に分かりやすい構成・デザインに編成しなおした。TOPページはコンテンツマネジメントシステムを導入し、編集スタッフが常時更新できる体制を構築した。

リニューアル前後でアクセス数の統計手法を変更したので単純比較できないが、年間トータルアクセスは3割ほど増加した。TOPページのアクセスはリニューアル前、リニューアル後ともに昨年より10%ほど減少傾向があるが、TOPページだけを見て他の違うサイトに行ってしまう素通り閲覧が25%減り、サイト内のページに進みNACS-Jサイト内に滞在する閲覧が増加した。

閲覧率が高いのは活動紹介の目次、指導員ページなどで、3月に全体の閲覧率が上がるなどの新しい傾向が出てきた。(全ページアクセス年間計 約1,850,000PV/日平均 約5,000PV/トップページアクセス日平均385PV)

(3) 暮らしと自然のつながり再発見！（編集・教育普及合同企画／経団連自然保護基金助成事業）

教育普及部と共同で、日常のくらしから生態系サービスを実感することを目的に、「地域の自然の恵みを感じること・もの」について、全国からレポートを収集した。レポートを元にスタッフが各地でのインタビュー取材を行い、会報『自然保護』と Web サイトの「暮らしと自然のつながり再発見！」のコーナーで紹介し、レポートと解説をまとめた小冊子を 10,000 部制作した。小冊子はレポート参加者、および 2010 年度 COP10 関連イベント、NACS-J 主催イベント・講習会等で配布予定。

5. 広報企画事業

個人会員呼びかけの新聞広告、セミナーの開催、会員向け地域ミーティングの開催を企画したが、担当職員の採用に至らず、実施できなかった。

6. 会員管理・サービス事業

(1) 会員管理

- ・会員数の維持・拡大

個人会員の会費自動引落の利用促進や賛助会員企業への訪問等により、会員登録の継続を呼びかけ、個人会員数の維持と賛助会員数の拡大を図った。

- ・一般寄付の拡大

個人からの募金や遺贈、企業からの商品販売・催事等を通じた寄付キャンペーン企画の受け入れ等により、一般寄付の拡大を図った。

(2) 会員サービス

主催催事での直接販売や合資会社 狼森（おいのもり）への委託による通信販売を通じて、オリジナル刊行物や会報『自然保護』バックナンバーを頒布した。

7. 顕彰・基盤整備事業

(1) 顕彰（運営基盤整備積立金活用事業）

第 9 回日本自然保護協会沼田眞賞の推薦募集・選考を行い、授賞者を星一彰氏（福島県における自然保護への貢献）、おおくさ倶楽部（湧水による谷津田の生きもののための田んぼづくりと普及活動）、和光・緑と湧き水の会（白子湧水と斜面林の保全に対する貢献）に決定し、授賞式および記念講演会を開催した。（12/19 於：清澄庭園、約 70 名参加）

(2) 基盤整備（運営基盤整備積立金活用事業）

- ・資料の電子データ化

資料の効率的な保存と有効活用を図るため、会報バックナンバーを PDF 化した。

- ・情報管理体制整備

個人情報保護に対する啓蒙のための職員研修を実施した。（10/28）

以上

別表 1. 意見書・要望書等の提出 (協会代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価準備書」に対する環境保全の見地からの意見書・理由書 (5/14・沖縄防衛局長)
- ・ポスト 2010 年目標についての NACS-J のポジションペーパー/NACS-J Position Paper on Post 2010 Target (10/10・環境省、和英文)
- ・泡瀬干潟埋立事業を中止し、干潟の自然再生を求める要請 (10/15、沖縄県知事)
- ・オバマ大統領・鳩山総理の首脳会談に際し辺野古への普天間飛行場移設問題に関する声明 (メッセージ) (11/12・アメリカ合衆国大統領、日本内閣総理大臣、和英文)

別表 2. 声明・パブリックコメント等の提出 (主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・国立・国定公園の公園区域及び公園計画の変更 (小笠原国立公園について) への意見 (4/30・環境省)
- ・諫早湾干拓事業 開門調査のための環境アセスメントに係る方法書骨子 (素案) への意見 (5/14・農水省)
- ・環境影響評価制度総合研究会報告書 (案) に対する意見 (6/26・環境省)
- ・環境省「猛禽類保護の進め方」改訂へのコメント (9/20・日本鳥学会自由集会にて)
- ・「ポスト 2010 年目標日本提案 (案)」への意見 (11/27・環境省)
- ・今後の治水のあり方に関する意見 (1/20・国土交通省)
- ・環境影響評価制度専門委員会報告 (案) への意見 (2/15・環境省)

別表 3. 委員の派遣 (カッコ内は要請主体)

- ・大雪・日高森林生態系保護地域拡大原案作成委員会 (林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・にしんの森再生プロジェクト委員会 (林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・十勝川源流部更生プロジェクト委員会 (林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・保護林管理強化対策事業検討委員会 (林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・生物多様性検討委員会 (林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・クマタカ希少野生動植物種保護管理対策調査検討会 (林野庁東北森林管理局、新規)
- ・会津駒ヶ岳・帝釈山・田代山景観保全管理方針策定検討会 (環境省関東地方環境事務所、継続)
- ・尾瀬国立公園協議会 (環境省関東地方環境事務所、継続)
- ・尾瀬国立公園シカ対策協議会 (環境省関東地方事務所、新規)
- ・至仏山保全対策会議 (尾瀬保護財団、継続)
- ・イヌワシ生息環境保全調査事業検討会 (林野庁関東森林管理局、新規)
- ・小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会アドバイザー会議 (林野庁関東森林管理局、継続)
- ・小笠原兄島ノヤギ排除検討委員会 (東京都・自然環境研究センター、継続)
- ・父島東平ノヤギ・ノネコ排除区設置に関する検討会 (環境省、新規)
- ・小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議 (関東地方環境事務所)
- ・野生生物保護対策検討会アカガシラカラスバト保護増殖分科会 (環境省、継続)
- ・東京都における保護上重要な野生生物の種に関する検討会 (植物) 島しょ部専門部会 (東京都、新規)
- ・東京都シカ保護管理計画検討委員 (東京都、継続)
- ・希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する常設検討委員会 (林野庁関東森林管理局、継続)

- ・風力発電施設立地適正業務検討会（環境省、継続）
- ・温暖化影響情報集約型 CO2 削減行動促進事業「いきものみつけ」検討会（環境省生物多様性センター、継続）
- ・「里山林再生戦略の確立に向けた基礎調査」に係る調査研究委員会（林野庁、新規）
- ・森林における生物多様性保全の推進方策検討会（林野庁、新規）
- ・企業の生物多様性保全に関する活動の評価基準検討委員会（国際環境 NGO FoE Japan、継続）
- ・「生物多様性保全につながる企業のみどり 100 選」選考委員会（財団法人都市緑化基金）
- ・ESD×生物多様性プロジェクトモデル事例検討会（持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議、新規）
- ・千葉県特定外来生物（アライグマ）対策検討会（千葉県、継続）
- ・富士山、丹沢緑の回廊モニタリング調査検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・長野県希少野生動植物保護対策委員会（長野県、新規）
- ・中部森林生命圏生物多様性マップの作成に関する調査検討委員会（林野庁中部森林管理局、新規）
- ・穂谷森づくり委員会（枚方市、継続）
- ・「綾森林生態系保護地域 保全管理計画の策定」に係る検討委員会（財団法人日本森林技術協会、新規）
- ・猪八重照葉樹林の今後の保護・利用に関する意見交換会（宮崎南部森林管理署、新規）
- ・奄美群島森林生態系保護地域設定委員会（林野庁九州森林管理局、継続）
- ・沖縄本島北部国有林の取り扱いに関する検討委員会（林野庁九州森林管理局、継続）
- ・中城港湾泡瀬地区環境監視委員会（内閣府沖縄総合事務局、継続）
- ・西表森林生態系保護地域設定委員会（林野庁九州森林管理局、継続）

別表 4. 催事等への後援・協力・職員派遣等（カッコ内は主催者・開催日）

〔後援〕

- ・タンポポ調査・西日本 2010（同実行委員会、3/1～5/31）
- ・2008 年 IUCN 勧告「2010 年国連国際生物多様性におけるジュゴン保護の推進」の履行を求める請願署名への賛同（ジュゴン保護キャンペーンセンター、2008/10/末～2009/5/末）
- ・第 83 回 国展（国画会、4/29～5/11）
- ・『2009 年度 KiNOA 定例会』（KiNOA、2/7～8、3/7～8、5/30～31、7/4～5、10/3～4）
- ・東京パードフェスティバル 2009（同実行委員会、5/23～24）
- ・公開シンポジウム、首都圏の奇跡の谷戸 三浦市三戸「北川」の湿地を残したい！（三浦・三戸自然環境保全連絡会、5/30）
- ・「彩の国環境地図作品展」（彩の国環境地図作品展実行委員会、2009/6/1～2010/3/31）
- ・第 26 回 “自然は友だち 私の自然観察路コンクール”（財団法人国立公園協会、6/1～9/20）
- ・あいちの自然観察会 2009（愛知県自然観察指導員連絡協議会、6/14）
- ・中・四国環境教育ミーティング 2009（中・四国環境教育ネットワーク、6/26～28）
- ・2009 年植生学会シカ影響シンポジウム（植生学会企画委員会、7/4）
- ・企画展 生物多様性 1 生命のにぎわいとつながり「虫、魚、鳥、・・・草、木、・・・人」（千葉県立中央博物館、7/4～8/31）
- ・シンポジウム 首都圏の奇跡の谷戸 三浦市三戸「北川」の湿地を残したい！（三浦・三戸自然環境保全連絡会、7/12）
- ・沖縄・生物多様性市民ネットワーク結成大会（沖縄・生物多様性市民ネットワーク、7/25）

- ・平成 21 年度 夏休み子供自然観察教室（利根沼田自然を愛する会、7/26）
- ・第 8 回ヒメボタルサミット in 愛知（同実行委員会、8/8）
- ・COP10 1 年前イベント プレシンポジウム・シンポジウム（国際自然保護連合日本委員会、9/6、10/10）
- ・江戸川・利根川流域シンポジウム 2009 ここから未来の川づくりへ～個性ある豊かな川を次世代に～（江戸川・利根川流域ネットワーク、9/26）
- ・シンポジウム「生物多様性と企業の社会的責任～北川湿地問題を例として～」（三浦・三戸自然環境保全連絡会、9/27）
- ・「大浦湾チリビシのアオサンゴ群集」の天然記念物指定に関する陳情書（沖縄リーフチェック研究会、9/28）
- ・2010 年国際ジュゴン年に～基地でなく保護区を（ジュゴン保護キャンペーンセンター、9 月末）
- ・シンポジウム：人と川 そのつながりーヤマメ湧く川は今ー（北海道自然保護協会、10/3）
- ・軽井沢第 8 団結成式（日本ボーイスカウト軽井沢第 8 団、10/4）
- ・環境 NGO・NPO Hyogo 対話（財団法人ひょうご環境創造協会、10/11）
- ・2010 年国連国際生物多様性年にむけた沖縄のメッセージ～海勢（ジュゴン保護キャンペーンセンター、10/16）
- ・湿地の多様性ーラムサール COP10 から CBD-COP10 へ（ラムサール・ネットワーク日本、10/17）
- ・2009 長良川救済 DAY（長良川 DAY 実行委員会、10/18）
- ・「田んぼ国際環境教育会議 2009」（日本環境教育学会、10/31～11/1）
- ・アース・ビジョン第 18 回地球環境映像祭（アース・ビジョン組織委員会事務局、10 月中旬、3/5-7）
- ・第 7 回千葉県自然観察指導員フォローアップ研修会（千葉県自然観察指導員協議会、11/14～15）
- ・「悟堂に学ぶ」第 2 回中西悟堂研究大会（同研究会、11/15）
- ・第 9 回アジア・太平洋 NGO 環境会議（APNEC9）第 27 回日本環境会議 30 周年記念尼崎大会（日本環境会議、11/20～21、11/22～23）
- ・COP10 にむけて 生物多様性シンポジウム「植物戦略～生物多様性を守る」（生物多様性 JAPAN、12/5）
- ・芦生生物相保全プロジェクト・Pro Natura Fund 公開中間報告会（芦生生物相保全プロジェクト、12/13）
- ・シンポジウム「上関：瀬戸内海の豊かさが残る最後の場所」（日本生態学会自然保護専門委員会・日本鳥学会鳥類保護委員会・日本ベントス学会・自然環境保全委員会、1/10）
- ・『2010 年度 KiNOA インタープリテーション』（KiNOA、2/6-7、3/6-7、6/5-6、7/10-11、10/2-3）
- ・第 9 回草津市こども環境会議（同実行委員会、2/13）
- ・『生物多様性 EXPO2010』（環境省生物多様性地球戦略企画室、2/26-28、3/20-21）
- ・「COP10 とトヨタの里山破壊を考える」（愛知県野鳥保護連絡協議会、2/28）
- ・第 7 回生物多様性シンポジウム トキが選んだ水辺環境（生物多様性保全ネットワーク新潟、3/6-7）
- ・2010 九州環境教育ミーティング in 雲仙（同実行委員会、3/6～6/7）
- ・シンポジウム～上関：瀬戸内海の豊かさが残る最後の場所～（日本生態学会・自然保護専門委員会・日本鳥学会・鳥類保護委員会・日本ベントス学会・自然環境保全委員会、3/14）
- ・「救え!諫早・泡瀬・長島の海プロジェクト」（泡瀬干潟を守る連絡会・諫早干潟緊急救済本部／東京事務所・長島の自然を守る会、3/21・22、4/10・11、4/29、5/16）
- ・第 5 回日韓 NGO 湿地フォーラム（ラムサール・ネットワーク日本、3/26～28）
- ・三番瀬の観察会と体験学習、資料展示（NPO 千葉まちづくりサポートセンター、千葉フィールドミュージアム事業推進委員会、千葉県立中央博物館、3/27）
- ・第 12 回「日本水大賞」（社団法人日本河川協会内）

【協力】

- ・企画展「わかった！かわった？群馬の自然」（群馬県立自然史博物館、3/15～5/6）
- ・DVD「佐々木洋の危険動物シリーズ」転載（オーズランド、7月）
- ・「ap bank fes 2009」自然観察会（ap bank、7/17～7/20）
- ・生物多様性アクション支援サイト BANG！（全国青年環境連盟、7/26）
- ・サニエル親子ネイチャーツアー（サニクリーン、8/8-9）
- ・社員親子対象自然観察会（NTT データ、8/20）
- ・「生物多様性保全を軸とした ESD のモデル化と CBD/COP10 への提言」事業（地球環境基金助成事業）（NPO 法人 ESD-J、2009/9/1～2010/3/31）
- ・社員家族対象自然観察会（共同印刷、10/4）
- ・「ミクシィ・チャリティ年賀状サービス」（株式会社博報堂、12/7～1/31）
- ・朝日新聞 広告記事「生命の五輪」CBD 市民ネット特集（朝日新聞名古屋本社、2/22）
- ・社員向け自然観察会（資生堂、3/19）
- ・大型猛禽類の生息状況から見た、日本の自然の問題点（朝日新聞科学部）
- ・川辺川ダム・ハッ場ダムを考える、自然保護の視点とは。（読売新聞文化部）

【職員派遣】

- ・「自然観察会」を活用したファシリテーション研究（特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会、4/25）
- ・『赤谷ノートの世界』トークセミナー（株式会社ニコン総務部社会貢献室、5/6、5/13）
- ・第1回 JBON ワークショップ（国立環境研究所生物圏環境研究領域、5/8～10）
- ・面接授業「生物多様性保全と国有林管理」（放送大学群馬学習センター、5/16）
- ・「基礎から学ぶ市民の勉強会 COP10/MOP5 ～エッ！関係あるの？生物多様性と遺伝子組み換え」（食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク、5/23）
- ・講義「技術系のキャリア形成」（麻布大学、5/25）
- ・講義「日本自然保護協会の活動と政策提言」（麻布大学、5/27）
- ・コミュニケーションフォーラム：先輩の生の声を聞く（野生生物保護学会青年部会、5/31）
- ・『鹿角環境調査隊プログラム』開講講座（鹿角市役所、5～6月）
- ・ワークショップ「湿地の生物多様性 ラムサール条約から見る」（ラムサールネットワーク日本、6/6）
- ・夷隅郡市自然を守る会総会（夷隅郡市自然を守る会、6/7）
- ・地球温暖化セミナー「生物多様性って何？」（地球温暖化を考える市民アクション 2009 徳島、6/13）
- ・The Red List Categories and Criteria and the software for red listing. 中国北京におけるトレーニングコース Workshop（Union for Conservation of Nature、日本植物学会、6/15～19）
- ・たちかわ市民交流大学（たちかわ市民交流大学推進委員会、7/1、8/5、9/2）
- ・「子供を対象とした自然観察会」研修（東芝株式会社CSR推進室、7/5）
- ・平成21年度 OECD 対日環境保全政策レビュー・ヒアリング（社団法人海外環境協力センター、7/15）
- ・ファーム・エイド銀座 2009 農業環境フォーラム（一般社団法人環境パートナーシップ会議、7/18）
- ・生物多様性アジアユース会議 in 愛知 2009（環境省自然環境局生物多様性地球戦略企画室、8/2～5）
- ・第3回シンポジウム「生命のにぎわいとつながりを世界の子どもたちの未来へ」（里山シンポジウム実行委員会、8/29）
- ・温泉学会第11回群馬・みなかみ大会（温泉学会、9/5～6）
- ・全国ギャザリング '09（全国青年環境連盟、9/19～23）

- ・沖縄研修旅行事前学習および地域での保全の取り組みについて（静岡市立商業高等学校、9/25）
- ・JICA 集団研修「生物多様性情報システム」コース 穴塚の里山における研修講師（財団法人自然環境研究センター、9/25）
- ・09年ナタネ調査報告&学習会「生物多様性とGM作物」（生活クラブ生協、9/28）
- ・「持続可能な森林経営の実践活動促進 取組事例 赤谷プロジェクト」（林野庁森林総合研修所、10/20）
- ・生物多様性に関する勉強会（九州弁護士会連合会 環境問題に関する連絡協議会、10/20）
- ・フォーラム・セミナー「企業に求められる生物多様性保全活動」（地球環境関西フォーラム、10/23）
- ・「屋久島生物多様性保全会議」森林生態系・天然林再生部会（屋久島生物多様性保全協議会、11/8）
- ・「第5回わくわくアートコンテスト」審査員（高尾の森わくわくビレッジ、11/8、12/12）
- ・講義「赤谷プロジェクトにおける溪流環境復元」（東京学芸大学、11/12）
- ・環境大臣賞受賞記念「水と湧き水環境フォーラム in 和光」（NPO 法人和光・緑と湧き水の会 和光市、12/5）
- ・森林と市民を結ぶ全国の集い2009 in Tokyo（同実行委員会、12/5～6）
- ・ABC朝日放送ラジオ『アース・ドリーミング～ガラスの地球を救え』（ABC朝日放送ラジオ、12/5）
- ・ネイチャーリーダー初級講座「人・生きもの・まち・自然 そのにぎわいとつながりー生物多様性とまちづくりー」（NPO 法人ネイチャーリーダー江東 江東区、12/6）
- ・なごや環境大学共育講座 生物多様性条約と先住民の権利（生物多様性フォーラム、12/12）
- ・屋久島世界遺産地域調査研究活動報告会（九州地方環境事務所、12/17）
- ・第1回地域環境アドバイザー養成講座（いわき地域環境科学会・いわきの森に親しむ会、12/18～19）
- ・地域自然情報ネットワーク 勉強会（NPO 法人 地域自然情報ネットワーク、12/19）
- ・ボランティアスタッフ研修（財団法人さいたま緑のトラスト協会、1/16）
- ・「自然観察会」を活用したファシリテーション研究（日本ファシリテーション協会、1/23）
- ・九州自然協議会 in 諫早（九州自然協議会、2/6～7）
- ・NACOT「生物多様性研究会」（自然観察指導員東京連絡会 生物多様性プロジェクトチーム、2/11）
- ・生物多様性条約と先住民民族（明治学院大学国際平和研究所、2/17）
- ・「生物多様性 COP10 に向けた研究会の開催」（国際協力 NGO センター、3/10）
- ・日本生態学会 第57回大会シンポジウム（日本生態学会、3/15～20）
- ・大草谷津田いきもの里モニタリング調査打合せ会（千葉市環境局保全部環境保全推進課自然保護係、3/19）
- ・日本地理学会 春季学術大会（日本地理学会、3/28）

【訪問学習の受け入れ】

- ・岩手県宮古市立第一中学校（4/22）
- ・岩手県盛岡市立厨川中学校（4/23）
- ・岐阜県加茂郡七宗町立上麻生中学校（5/28）
- ・石川県金沢市立高岡中学校（7/8）
- ・私立湘南学園高等学校（7/8）
- ・宮城県仙台第一高等学校（9/10）
- ・昭和女子大学附属昭和中学校（10/13）
- ・岩手県盛岡市立下野橋中学校（10/29）
- ・青森県三沢市立第二中学校（11/5）
- ・東京都足立区立西新井中学校（2/5）
- ・新潟県新潟市立岩室中学校（3/16）

別表5. プロ・ナトゥーラ・ファンド 第20期助成先

(万円)

テーマ	国内グループ名 ／海外申請者名	助成額
(1) 国内研究助成		
有明海奥部・諫早湾における海底堆積物の変化と諫早湾干拓事業の影響	有明海環境生態調査・研究プロジェクト	95
群馬県玉原湿原の保全に関する研究	玉原湿原保全プロジェクト	95
砂防堰堤撤去による溪流植生復元のためのモニタリングおよび回復評価手法の開発	赤谷溪流生態研究会	66
南アルプス高山生態系の保全を目的としたニホンジカの生態学的研究	信州大学ニホンジカ研究チーム	196
奄美群島における絶滅危惧植物の生育地調査と保全遺伝学的研究	奄美希少生物調査隊	100
奄美大島におけるイシカワガエルの生活史を通じた行動圏と利用環境の解明	奄美両生類研究会	111
サシバ(<i>Butastur indicus</i>)の狩場環境の創出にむけた草刈りや杭の設置の保全的効果の検証	岩手大学農村生態系再生研究会	99
三浦半島沿岸のカムリウミスズメ保全のための調査 (継続)	城ヶ島沖の海鳥観察グループ	129
海洋島における外来アリの分布パターンの経時変化と在来鳥類群集への影響評価	南大東生態系保全グループ	125
宝蔵寺沼ムジナモ自生地の生育環境把握と改善のための水質調査	羽生市ムジナモ保存会	95
国立公園特別保護地区上高地における地形変化と植生動態を許容した自然景観保全に関する基礎研究	上高地自然史研究会	100
(2) 国内活動助成		
日本におけるユネスコ「人と生物圏」計画の普及と「生物圏保存地域」の登録・活用	日本 MAB 計画委員会	58
地域連携による生態学教育プログラム「人と自然と生態学」2 (継続)	岩手生態学ネットワーク (EINET)	40
野生動物レスキュー&リハビリ・ボランティア養成	野生動物保護施設ネットワーク	36
普及・啓発・提言事業 湿地の生物多様性～ラムサール COP10 から CBD-COP10 へ～	ラムサール・ネットワーク日本	150
野尻湖における水草帯の復元と保全手法に関する検討	野尻湖水草復元研究会	97
南大東島の環境保全のための啓蒙活動	ダイトウコウノハズク保全研究グループ	87
サハリン石油・ガス開発の環境影響における自然環境・野生生物保護のための調査・提言・啓発活動	国際環境 NGO FoE Japan	100
(3) 海外助成		
ネパール、アンナプルナ保護区ムスタン地区におけるユキヒョウ (<i>Uncia uncia</i>) の保護活動	Achyut Aryal	100
ロシア・アムール地域のムラヴィオフカ自然保護区内におけるツル類・コウノトリの繁殖地に野火が及ぼす影響を抑制するための、研究に基づいた技術の開発とその実行	Sergei M. Smirenski	106
計 20 件		1,985

別表6. NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
427	6/26-28	東京都	八王子セミナーハウス	帝人株式会社・トステム株式会社・五洋建設株式会社	58
428	7/18-20	神奈川県	富士ゼロックス株式会社塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	61
429	7/31-8/2	京都府	京都精華大学	京都精華大学	61
430	9/4-6	奈良県	奈良県立青少年野外活動センター	自然観察指導員奈良連絡会	32
431	9/11-13	岐阜県	岐阜市少年自然の家	NPO 法人長良川自然学校	22
432	9/21-23	千葉県	千葉市ユースホステル	江戸川大学・東邦大学	51
433	9/26-28	群馬県	千葉市高原千葉村	赤谷プロジェクト地域協議会	49
434	10/16-18	愛知県	岡崎市民休養施設「桑谷山荘」	愛知県	46
435	11/21-23	三重県	津市青少年野外活動センター	自然観察指導員三重連絡会	47
436	11/27-29	兵庫県	兵庫県立淡路景観園芸学校	兵庫県立淡路景観園芸学校	34

別表7. 自然観察指導員フォローアップ研修会

NO	開催日	テーマ	会場	共催団体	参加者数
146	6/27-28	生物多様性実感研修	黒髪少年自然の家	佐賀県、ネイチャー佐賀	20
147	10/31-11/1	生物多様性実感研修	埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園	埼玉県	46